

**明石市の安心の医療確保政策と市民病院の役割・機能**  
**【 概要版 】**

**安心の医療確保政策検討委員会**



# 目次

---

. 明石市と隣接市町の医療提供体制	... 1
. 明石市の入院医療将来推計	... 4
. 明石市立市民病院の現状	... 8
. これからの明石市「安心の医療確保政策」への提案	... 10

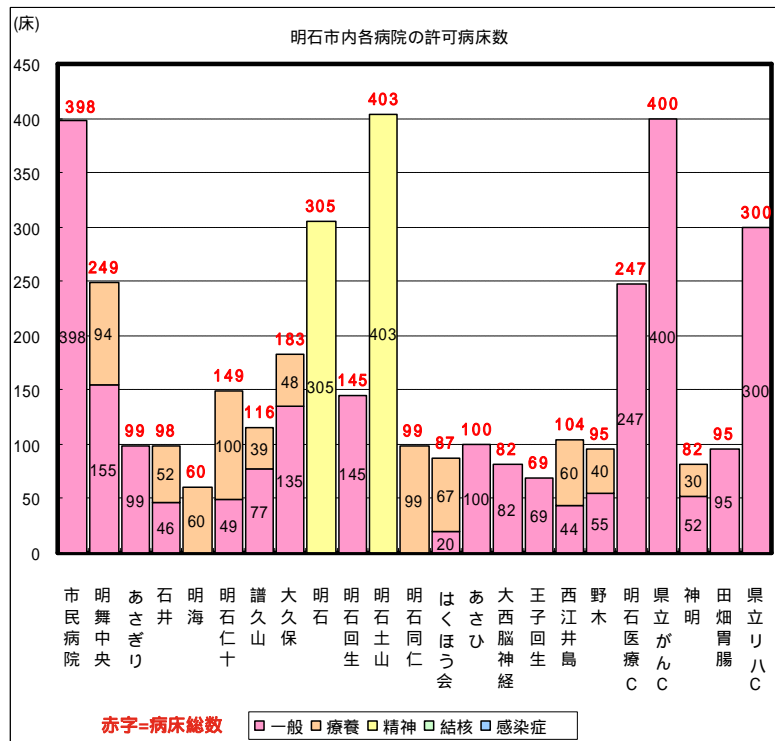


# 明石市と隣接市町の医療提供体制

## 1. 明石市の医療提供体制

### (1) 明石市の病院と病床種別病床数

各病院の許可病床数の総数は3,965床で、内訳は一般病床2,568床、療養病床689床、精神病床708床となっている。一般病床では県立がんC(400床)、市民病院(398床)の規模が大きい。



\*丸数字は一般病棟入院基本料 7:1、10:1、13:1、15:1  
 \*県立リハCの所在は神戸市だが、相当数の患者流入が見込まれるため、明石市の病院と同列に扱っている。

出所: 1) 兵庫県病院名簿(平成20年4月1日)  
 2) 近畿厚生局兵庫事務所「施設基準届出受理状況」(平成21年3月2日現在)

### (2) 病院機能

明石医療センター(地域医療支援病院)、兵庫県立がんセンター(都道府県がん診療連携拠点病院)、県立加古川病院(災害拠点病院)、加古川市民病院(地域周産期母子医療センター)の4病院が許可、指定を受けている。

### (3) 主要な疾患別の診療状況

#### 脳血管疾患

大西脳神経外科病院が明石市の中核といえる。診療実績は神戸中央市民病院と比較しても遜色ない実績を擁している。

#### 虚血性心疾患

明石医療センターが市内の中核機能を担っている。市民病院は診療機能は持つが、実績では明石医療センターとの差が大きい。

#### 消化器系の疾患

市民病院の診療実績は市内最多、次いで明石医療センターである。2病院が明石市の医療提供の中核である。

#### 呼吸器系の疾患

消化器系の疾患と同じく市民病院、明石医療センターが明石市の入院診療の中核を担っている。

#### 神経系の疾患

大西脳神経外科病院、明石医療センター、市民病院が明石市の入院診療の中核を担っている。

#### 周産期医療

あさぎり病院が明石市の中核的病院であり、明石医療センターが続く。市民病院は平成21年4月現在、分娩取り扱いを休止中。

#### 小児医療

市民病院、明石医療センター、あさぎり病院の3病院が診療の中心であり、中でも市民病院が中核病院となっている。

#### 整形外科の疾患

明石医療センター、市民病院、大西脳神経外科病院が明石市の中核機能を担っている。

### (3) 特殊病棟・福祉療育施設の状況

#### 緩和ケア病棟

東播磨保健医療圏として未整備。

#### 回復期リハビリテーション病棟

明石市内で3施設108床が稼働中。

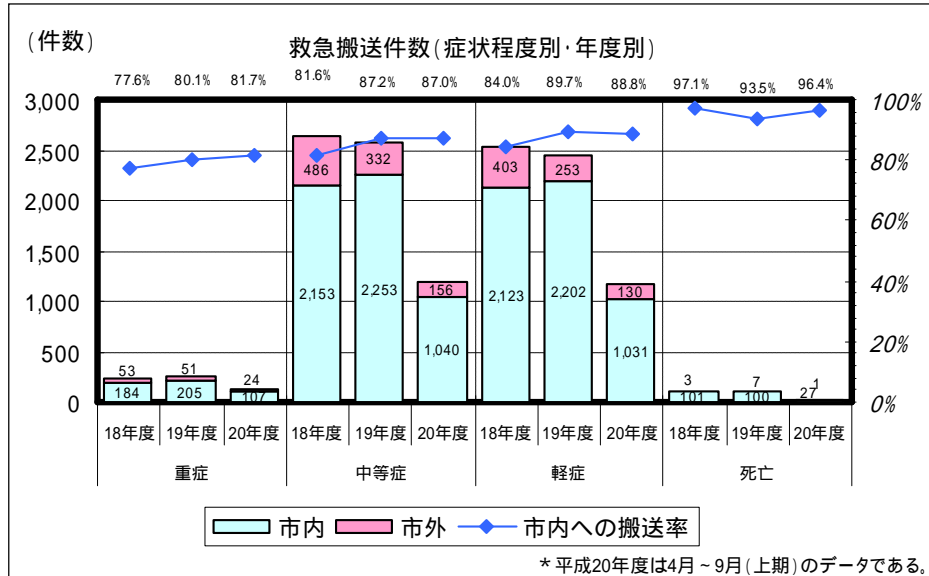
#### 小児・福祉療育施設

明石市内には知的障害児通園施設(定員30名)が運営中。居住系施設は未整備。

## 2. 明石市の救急搬送体制

平成19年度の明石市の救急搬送のうち「急病」に分類される搬送は5,403件のうち88%が明石市内の医療機関への搬送である。

「急病」患者のうち約90%が中等症、軽症に分類される。

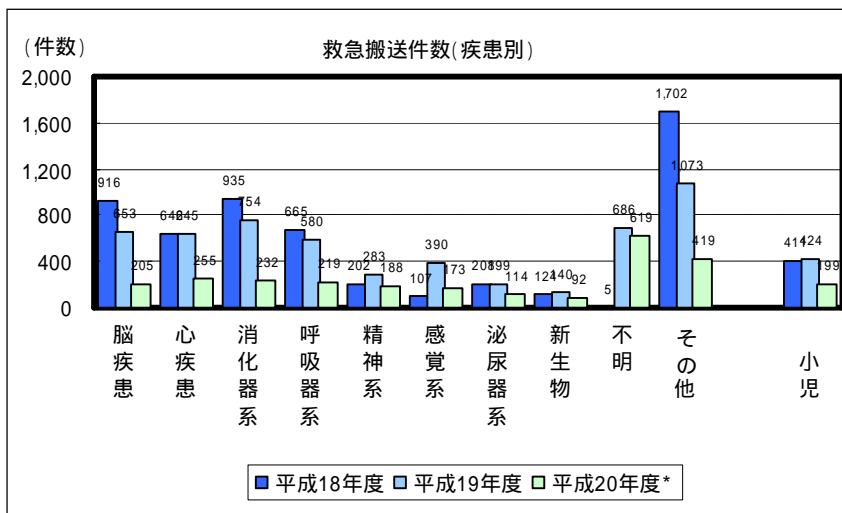


出所：明石市消防救急統計より作成

その他、不明を除く疾病分類別には「脳疾患」、「心疾患」、「消化器系」、「呼吸器系」の各疾患で救急搬送件数が多い。

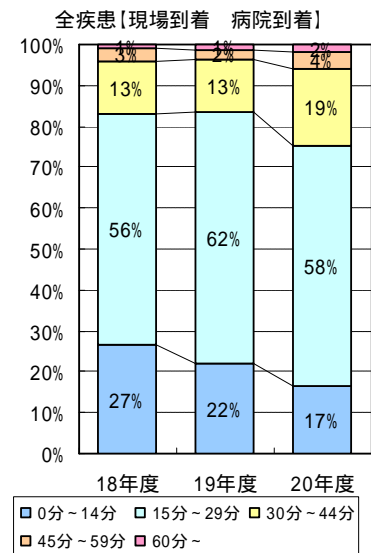
全疾患の搬送にかかる所要時間は現場到着から病院まで20分(中央値)である。

搬送患者のうち15歳未満の患者を抽出した「小児救急」では、市内の医療機関への搬送が約60%で他疾患に比して20～30ポイント低く、搬送時間も約23分と他の疾患に比べ長い。これは隣接する神戸市(県立こども病院(全県拠点))、加古川市(加古川市民病院(地域拠点))への搬送が多いことによる。



\*\* 小児は、疾患別の分類に集計項目がないため、全疾患の15歳未満の搬送件数を集計している。

出所：明石市消防救急統計より作成



# 明石市の入院医療将来推計

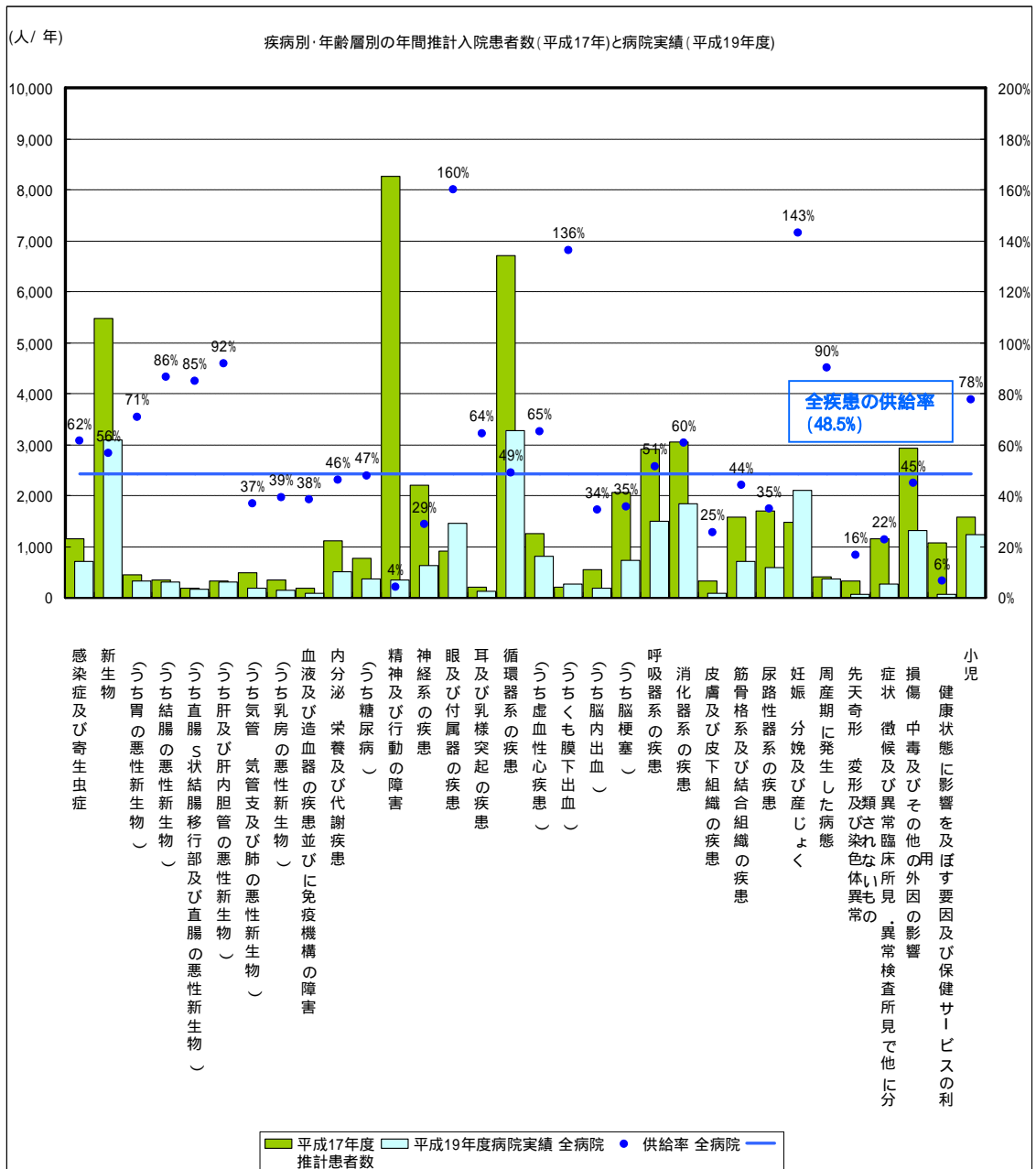
## 1. 主要な疾病ごとの入院医療需給バランス

### (平成17年推計患者数と平成19年度実績の比較)

疾病別需給バランスのうち、主な疾患の供給率(有効回答病院に限る)は、眼及び付属器の疾患、くも膜下出血、妊娠\*で100%を超えており、周産期、小児、肝臓・直腸・結腸・胃の各悪性新生物で70%以上の供給率を示している。

\* 出生数とは異なる。

留意事項) 本需給バランスは医療提供体制実態調査への回答病院のみを対象としている。



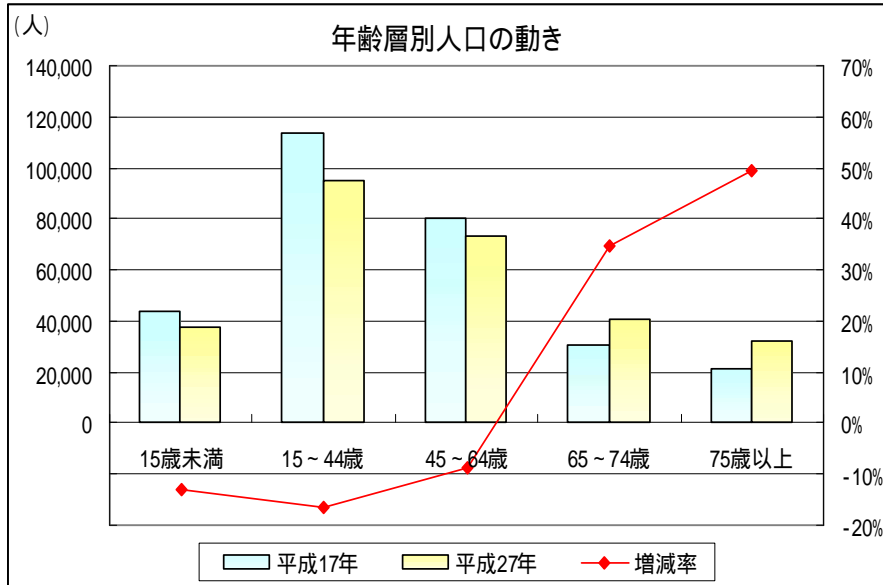
(入院患者数推計のスキーム)

平成17年の「年齢層別・疾病小分類別推計患者数」に人口の対全国・明石市比を乗ずることで同年の診療圏の疾病小分類別患者数を推計した。



## 2. 人口推計

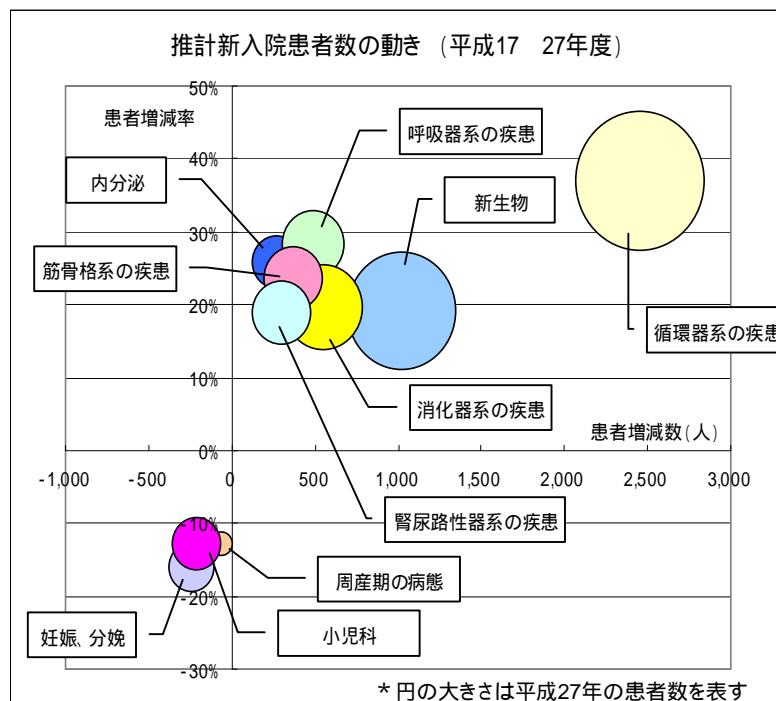
明石市の人口は平成17年の289,430人から平成27年には279,437人に減少が見込まれる。64歳以下人口が減少する一方で、65歳以上人口は増加し、平成27年には市内人口の26.1%を占める。



出所 : 1) 総務省統計局「平成17年国勢調査」  
2) 財団法人日本統計協会「市町村の推計人口 2005~2035」

## 3. 平成27年の推計新入院患者数

精神疾患を除く新入院患者数は平成27年に45,883人(平成17年比+7,077人)が見込まれる。疾病別には循環器系の疾患の増加率、患者増が大きく、また新生物、消化器系の疾患、呼吸器系の疾患も患者数のボリュームが大きい。

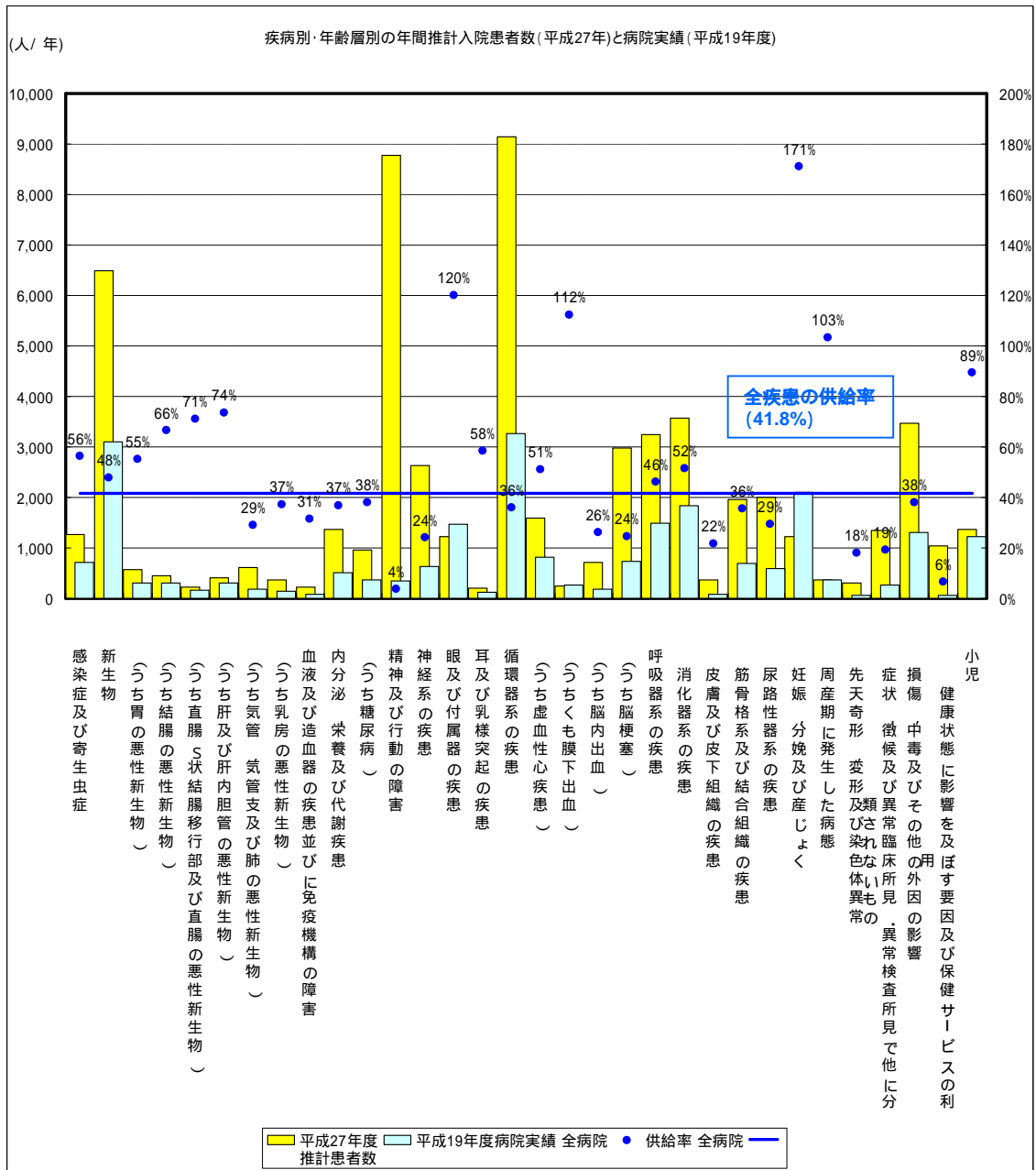


## 4. 平成27年の主要な疾病ごとの入院医療需給バランス

(各病院が平成19年度の入院受入実績を維持した場合)

主要な疾病の供給率は妊娠\*、眼及び付属器の疾患、くも膜下出血、周産期で100%超となる。小児、肝臓・直腸の各悪性新生物で供給率は70%を超える。少子高齢化の影響受け、周産期、小児の供給が充実する反面、他の疾患では供給率が概ね低下する。

\* 出生数とは異なる。



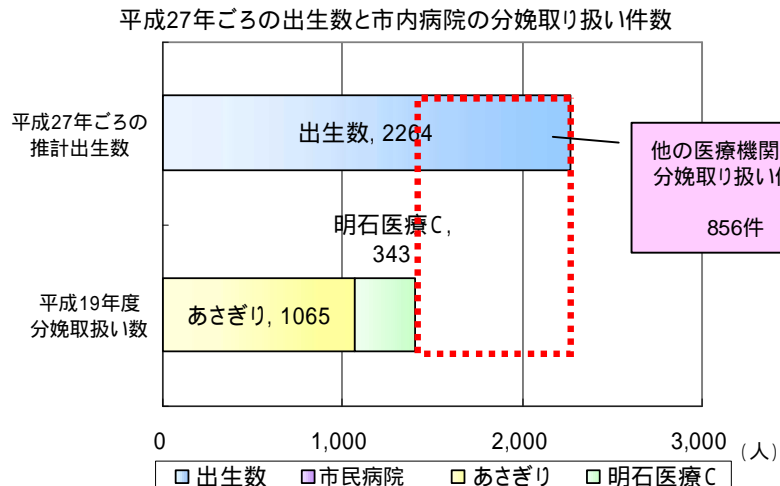
( 入院患者数推計のスキーム )

平成17年の「年齢層別・疾病小分類別推計患者数」に平成27年推計人口の対全国・明石市比を乗ずることで同年の診療圏の疾病分類別患者数を推計した。

## 5. 明石市の出生数の推計と周産期医療

(社)人口問題研究所による小地域簡易将来人口推計によれば、明石市の平成22～27年の推計出生数は平均2,264人/年が見込まれる。

市民病院が分娩を休止した状態が継続した場合、あさぎり病院、明石医療センターが平成19年度の分娩取り扱い件数を維持した状態で856件(約38%)が他の医療機関での出産となる。



出所 : 1) (社)人口問題研究所「小地域簡易将来人口推計」  
2) 地域の医療提供体制実態調査

## 6. NICU、GCUの整備について

平成21年4月現在、明石市内にはNICUが整備されておらず、治療の必要な患者は県立こども病院、加古川市民病院へ搬送されているものと推察される。市内の周産期・小児医療の充実のためにも市民病院へのNICU新設が検討事項と考えられる。

また近隣には周産期医療の拠点である県立こども病院(全県拠点)、加古川市民病院(地域拠点)が、市内ではあさぎり病院が分娩を取り扱っており、新生児の後方病床であるGCUの重要性も認められる。

# 明石市立市民病院の現状

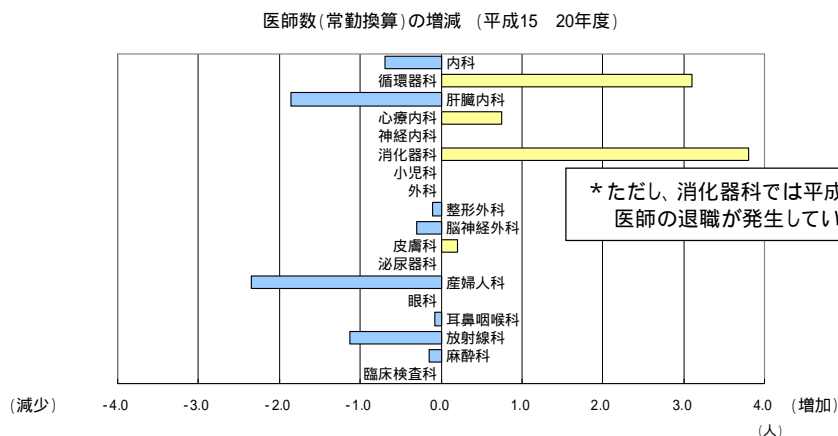
## 1. 病院機能

地域医療支援病院等の急性期病院として対応が望ましい許可・指定の取得が遅れている。

## 2. 医師の体制

研修医を除いた市民病院の病床：医師は約6：1の水準にある。一般病院の平均的な水準だが、先進的な急性期病院には5：1水準の病院もあり、医師数は十分とはいえない。

また産婦人科医師減少による分娩取り扱いの休止、消化器科医師の退職問題を抱えており対応が必要である。



## 3. 患者数の推移

### 入院患者数

平成15～19年度の新入院患者数は7,500人前後で推移しているが、新入院に占める紹介入院の割合は平成15年度の17.9%から19年度に8.3%へ低下している。

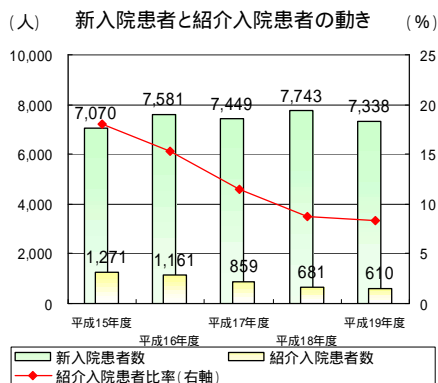
診療科別には小児科の紹介入院の減少が大きい(661人)が、ほぼすべての診療科で紹介入院が減少している。

### 外来患者数

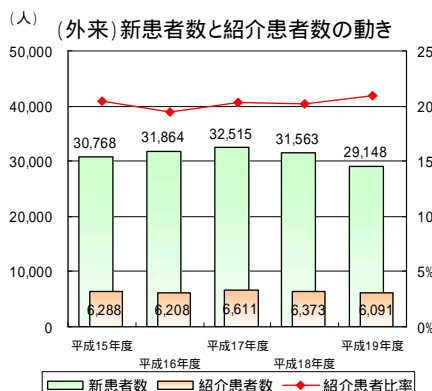
平成19年度の新患者は29,148人で、うち紹介患者は6,091人である。紹介患者の占める割合は平成15～19年度で20%程度で推移している。

### 救急患者数

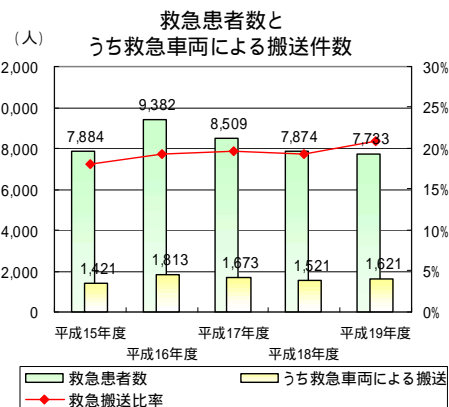
平成19年度の救急患者は7,733人、そのうち救急車両による搬送件数は1,621人(21.0%)で明石市内からの患者は5,053人(65.3%)である。



出所：明石市立市民病院「患者IDより算出」



出所：明石市立市民病院「患者IDより算出」

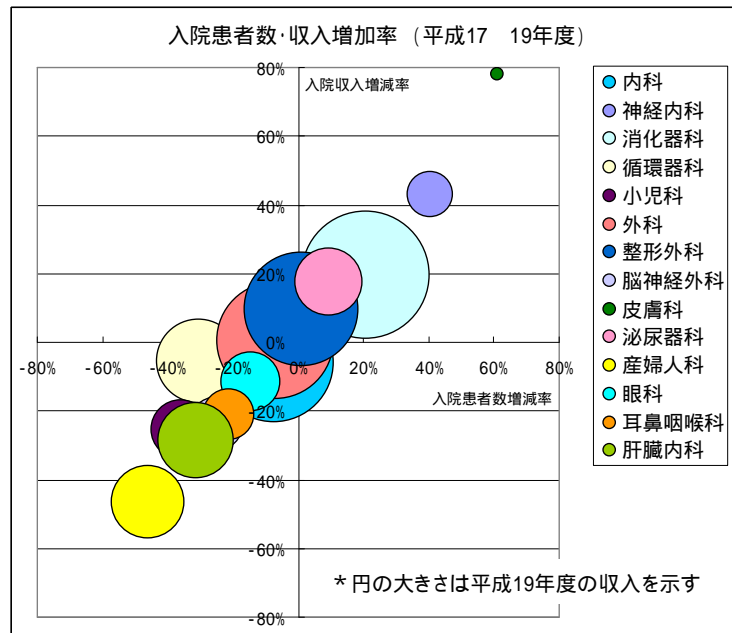


出所：明石市立市民病院「患者統計」

## 4. 診療科別入院収入の動き

平成17～19年度間の入院収入は全体で479,444千円( 10.3%)の減収\*。診療科別には産婦人科、循環器科、肝臓内科で減少幅が大きく3診療科で収入減の61.4%を占めている。一方で消化器科等4診療科で入院収入が増加している。

\* 請求額ベースの数値のため決算数値とは金額が異なる。



出所：明石市立市民病院「経営企画室提供資料」

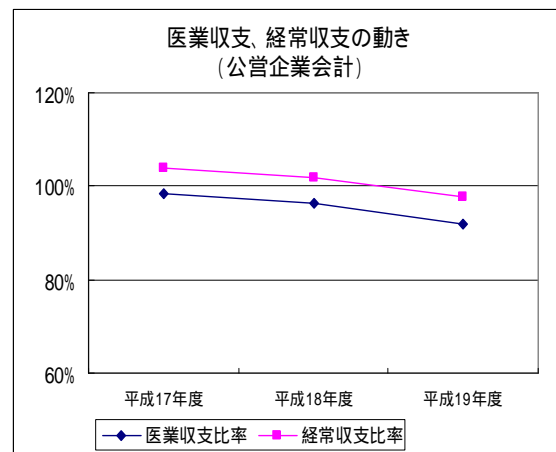
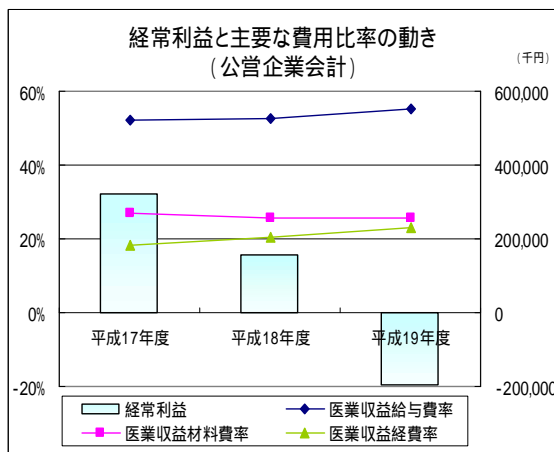
## 5. 財務分析

公営企業会計に基づく自己資本比率は90%台と高い水準にあるが、病院会計準則に準拠すると40%台となり、実質的には負債中心の資本構成である。

平成17～19年度間給与費の削減を行ったが、19年度には収益の減少が削減効果を上回り、給与比率は55%台にある。

平成16～18年度間は経常黒字を維持していたが、19年度に経常赤字に陥り、経常比率は100%を下回った。

財務の劣化は費用構造よりも収益減少の影響が大きい。平成19年度の入院収入は17年度比で約6億円の減収である。



出所：明石市立市民病院「決算報告」

# これからの明石市「安心の医療確保政策」への提案

## 1. 主要な疾病ごとのまとめ

下表は主要な疾病ごとの兵庫県保健医療計画における政策的な方針、明石市の推計発生患者数と各病院の新入院患者数の状況を一覧化したものである。

…明石市全体の状況， …市民病院の状況

	悪性新生物	脳血管疾患	心疾患
現状及び兵庫県保健医療計画における方針	<p>明石市内には県立がんCが、がん診療連携拠点病院として設置されている。</p> <p>東播磨医療圏には緩和ケア病棟が整備されていない。</p> <p>市民病院は医療計画上、専門的ながん治療を行う病院に位置づけされている。</p>	<p>明石市内には大西脳神経があり、脳血管疾患の基幹病院としての機能を果たしている。</p> <p>市民病院は医療計画上、脳血管疾患における急性期の医療を提供する病院に位置づけられている。</p>	<p>明石市内には明石医療Cがあり、心疾患における基幹病院としての機能を果たしている。</p> <p>市民病院は医療計画上、心疾患における急性期の医療を提供する病院に位置づけられている。</p>
患者数の将来推計 (平成17～27年)	<p>5大がんの新入院患者数 平成17年2,144人 平成27年2,648人(24%増)</p>	<p>脳卒中3疾患の新入院患者数 平成17年2,789人 平成27年3,930人(41%増)</p> <p>増加数、増加率ともに他の疾患を大きく上回る。</p>	<p>虚血性心疾患の新入院患者数 平成17年1,247人 平成27年1,592人(28%増)</p>
明石市における医療需給バランスの将来推計 (平成27年)	<p>市内に県立がんCが設置されているため、がんの診療提供は手厚いことが想定される(県立がんC未回答のため実情把握できず)</p>	<p>大西脳神経が現状の診療機能を維持し、市民病院が新入院患者の30%に対応した場合(現状は3.8%)、市内の医療供給率は52.0%となる。</p>	<p>市民病院と明石医療Cが19年度と同水準の入院比率を維持した場合、市内の医療供給率は61.9%となる。</p>
今後地域において必要と推測される医療機能	<p>終末期を支える在宅支援型の緩和ケア病棟が医療圏内で未整備であり、今後整備が望まれる。</p> <p>市民病院は急性期治療において県立がんC等と連携・分担するとともに、緩和ケア病棟の新設についても検討する必要がある。</p>	<p>従来の大西脳神経の一極体制では将来の患者数増への対応が不十分と想定される。</p> <p>回復期リハビリテーション病棟の不足が想定されるため、整備が必要である。</p> <p>市民病院は拠点病院としての機能強化が必要である。また、回復期リハビリテーション病棟の新設についても検討する必要がある。</p>	<p>将来の患者数増に対応した医療機能の強化が求められる。</p> <p>一つの病院へ機能を集約することも考えられるが、地理的要因等を考慮し、市民病院の機能を強化し明石医療Cとの二病院体制で入院医療の提供を行うことが必要となる。</p>

呼吸器系の疾患	消化器系の疾患	周産期・小児医療	救急医療
		<p>明石市の近隣には、周産期、小児ともに全県拠点である県立こども、地域拠点の加古川市民が設置されている。</p> <p>市民病院は医療計画上、小児医療の東播磨東部の2次救急医療を提供する病院に位置づけられている。</p>	<p>東播磨医療圏は平成21年度中に竣工予定の新県立加古川病院が救命救急センターに指定される見込みである。</p> <p>市民病院は医療計画上、東播磨東部の2次救急医療を担う病院として位置づけられており、市内の医療機関で最大の救急搬送患者を受け入れている。</p>
<p>呼吸器系の疾患の新入院患者数 平成17年2,914人 平成27年3,254人(12%増)</p>	<p>消化器系の疾患の新入院患者数 平成17年3,044人 平成27年3,575人(17%増)</p>	<p>明石市の出生数 平成17年2,645人 平成27年2,264人(14%減) 小児の新入院患者数 平成17年1,581人 平成27年1,377人(13%減)</p>	<p>高齢化の影響を受け、脳疾患、骨折等を中心に救急医療を必要とする患者数が増加すると考えられる。</p>
<p>医療提供を行う各病院からの回答が無いため全容の把握は出来ない。</p> <p>市民病院は単独で新入院患者の25.9%を受け持つ。</p>	<p>医療提供を行う各病院からの回答が無いため全容の把握は出来ない。</p> <p>市民病院は単独で新入院患者の35.8%を受け持つ。</p>	<p>市民病院が分娩を停止しているため、分娩を行う病院はあさぎり、明石医療C、大久保(未回答)となる。</p> <p>市民病院は単独で小児の新入院の58%を受け持つ。</p>	<p>将来、中小病院が救急医療の機能縮小を図った際には、その分の救急搬送の受入強化が必要となる。</p>
<p>市民病院が市内の医療提供の中核を担っており、現状の水準維持は必要。</p>	<p>市民病院が市内の医療提供の中核を担っており、現状の水準維持は必要。ただし、平成21年2～3月に医師が大量に退職する見込みであることを踏まえ、対策を講じる必要がある。</p>	<p>市民病院は平成20年度から分娩取扱を停止しており、あさぎり等への負担となっていることが推測され、早急な再開が必要である。</p> <p>小児の入院は市民病院が市内の中核を担っており、今後も現在の医療供給体制を維持、または強化する必要がある。</p>	<p>市民病院が、2次救急医療を担う中核病院としての機能を果たすことが求められており、現在の救急医療供給体制を維持、または強化する必要がある。</p>

## 2. 市民病院の担うべき役割の設定

### 【現在の明石市の医療提供体制では 将来需給バランスに不均衡が生じる領域】

- ＊ 循環器系の疾患 ……脳疾患、心疾患を中心に平成27年には患者数の大幅な増加(17年比+44.6%)が見込まれる。
- ＊ 救急医療 ……将来の病床再編に備えた救急受入の強化が必須。

脳血管疾患は大西脳神経の受入容量を超える可能性があることから、市民病院の拠点病院としての機能強化が必要である。

心疾患も患者数増加に対応する必要がある。一病院への機能集約も考えられるが、市民病院の機能を強化し明石医療Cとの二病院体制での受け入れ充実が求められる。

あわせて回復期リハビリテーション病棟の新設についても検討すべきである。

### 【市民病院の機能が低下している領域】

- ＊ 周産期(分娩) ……平成20年度より分娩取り扱いを停止。平成17年までは市内の出生数の20%に当たる分娩を取り扱っており、影響は大きい。

市内にNICUが整備されておらず、将来的にも出生数の減少は小規模であり、周産期医療の回復と充実が求められる。

### 市民病院の担うべき役割(想定)

- ＊ 悪性新生物 …… 県立がんCとの連携・分担、緩和ケア病棟の新設
- ＊ 脳疾患 …… 大西脳神経と並ぶ拠点病院としての機能強化、回復期リハ病棟の新設
- ＊ 心疾患 …… 機能強化して明石医療Cとの二病院体制で受入充実
- ＊ 消化器 …… 明石市の拠点病院としての機能強化
- ＊ 呼吸器 …… 明石市の拠点病院としての機能強化
- ＊ 周産期 …… 分娩機能の回復。NICU、GCUの新設
- ＊ 小児 …… 市内の小児拠点としての機能強化
- ＊ 救急医療 …… 重度、中等度の救急受入機能の強化。受入領域を明確化し、軽症の患者等は地域に委ねる(一般外来患者は削減)。

### 【市民病院が今後担うべき領域】

- ＊ 悪性新生物 ……市民病院は下部消化管の症例数では県立がんCを上回る。  
緩和ケア病棟が医療圏として未整備であり、緩和ケアチームを擁するため、市民病院での新設が望まれる。

市内に全県拠点である県立がんCを擁している。治療面で県立がんCと連携・分担するとともに、市民の終末期医療を支える在宅支援型の緩和ケア病棟の新設について検討すべきである。

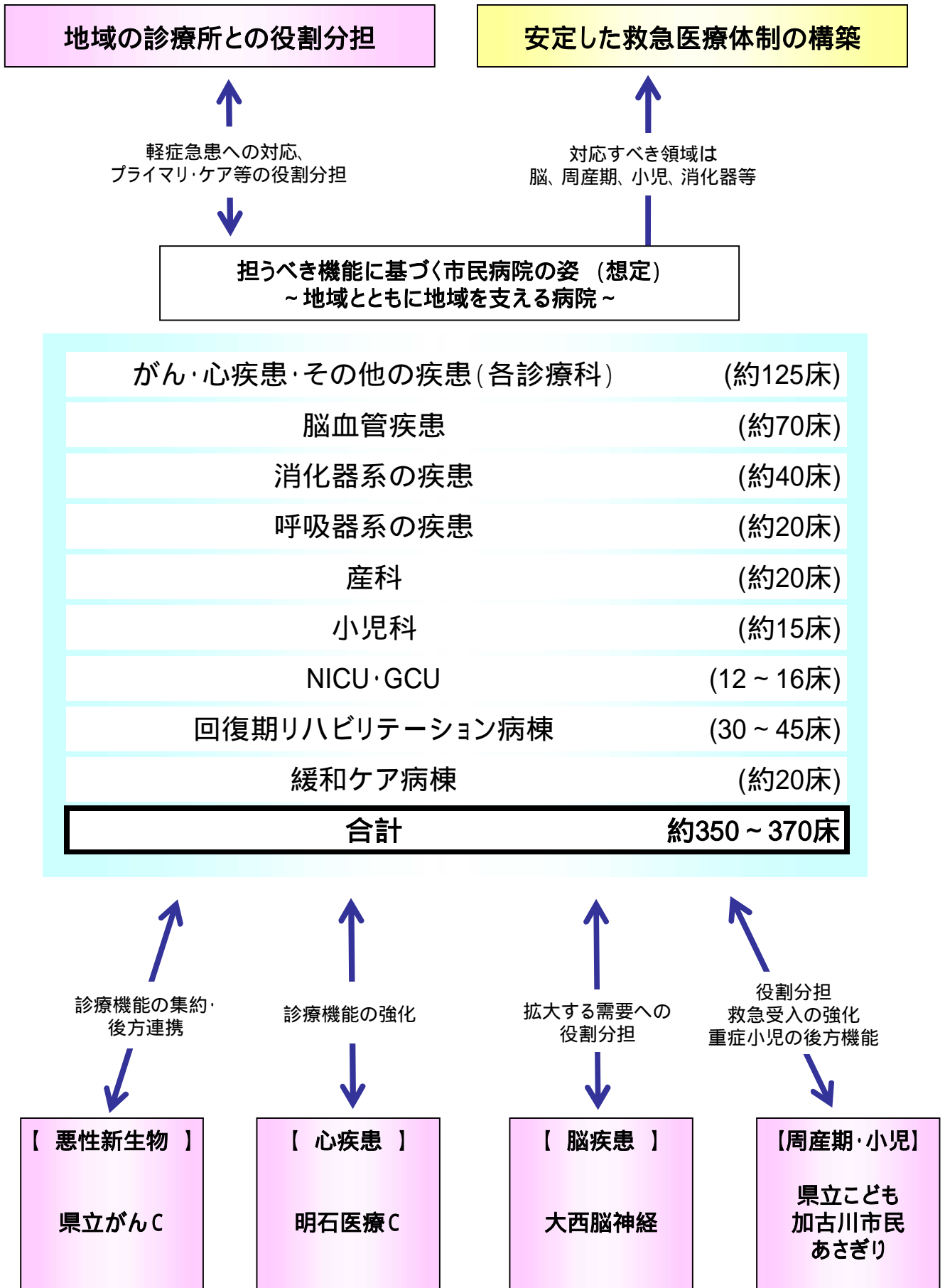
### 【市民病院が明石市の基幹である領域】

- ＊ 小児医療 ……推計入院患者数の51%を市民病院が診療している。
- ＊ 消化器 ……推計入院患者数の35%を市民病院が診療している。
- ＊ 呼吸器 ……推計入院患者数の25%を市民病院が診療している。

上記の三領域について、平成19年度まで市民病院は明石市内で最大の入院医療を提供しており、今後も現状水準の維持または強化が必要である。



### 3. 担うべき機能に基づく市民病院の姿 (想定)



注) 本図は現在の医療需給バランスから推計しており、その他の要素は考慮していない。